

令和 6 年度第 4 回高砂市総合教育会議 会議録

令和 7 年 1 月 2 3 日（木）高砂市役所南庁舎 5 階大会議室において開会

出席委員

市長	都倉	達殊
教育長	玉野	有彦
委員	吉田	美香
委員	山名	克典
委員	神尾	信作
委員	吉屋	章

出席事務局職員

総務部長	荻野	章広
総務部総務室長	吉金	仙人
総務部総務室総務課長	十倉	正佳

教育部長	木田	匠
教育部教育推進室長	福本	典子
教育部学校教育室長	平山	健二
教育部学校教育室参事	矢野	仁之
教育部教育推進室教育総務課長	石原	里美
教育部学校教育室学校教育課長	福永	慎也
教育部学校教育室学校教育課青少年センター所長	長谷川	竜平
教育部学校教育室学校教育課	鍋野	和己

健康こども部長	藤田	將太郎
健康こども部健康文化室長	三浦	一郎
健康こども部健康文化室文化スポーツ課長	井村	鉄也

傍聴者

5 名

本日の議事

- (1) 高砂市教育大綱及び高砂市教育振興基本計画について
- (2) 中学校部活動の地域展開について
- (3) 令和 7 年度教育予算について
- (4) その他

○事務局

それでは、失礼いたします。定刻になりましたので、これより令和6年度第4回高砂市総合教育会議を開会いたします。

まず初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長

皆さん、こんにちは。令和6年度第4回目の高砂市総合教育会議の開催に当たり、委員の皆様には御多忙の折、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

改めて委員の皆様方には平素から高砂市の教育行政、あるいは高砂市のこどもの健やかな成長に御尽力を賜っておりますことにお礼を申し上げたいと思います。

私は今年度これまでに開催させていただきました総合教育会議におきまして、次期高砂市教育振興基本計画策定に並行いたしまして、市長としての教育大綱を考えるというふうに申し上げてまいりました。これまで2回にわたる総合教育会議におきまして、高砂市教育大綱の素案をお示しをさせていただきました、教育委員の皆様方に数々の貴重な御意見を賜ってまいりました。これにつきましても、改めて心から感謝を申し上げます。

今回、それらの御意見を踏まえまして修正いたしました教育大綱の最終案をお示しをしておりますので、本日の総合教育会議において教育委員の皆様方からの御承認をいただき、新たな高砂市教育大綱として定めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

さて、本日の議題といたしまして3点挙げてございます。1点目は先ほど申し上げましたとおり高砂市教育大綱及び高砂市教育振興基本計画について、2点目には中学校部活動の地域展開について、3点目には令和7年度教育予算についてを御議論いたしたく思っております。年度末が近づき慌ただしい時期となっておりますが、皆様には前回に引き続きまして闊達な御議論をいただければと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

ありがとうございました。

本日は、全ての構成員の皆様には御出席いただいております。出席者の御紹介並びに事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。

本日は「高砂市教育大綱及び高砂市教育振興基本計画について」、「中学校部活動の地域展開について」、「令和7年度教育予算について」を議題として挙げさせていただきます。

高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

それでは、次第に従いまして議事を進めます。

議題1「高砂市教育大綱及び高砂市教育振興基本計画について」を議題として取り扱いたいと思います。

教育大綱、教育振興基本計画のそれぞれについては、現時点での最終案としてお示しをさせていただきます。

それではまず、高砂市教育大綱についてですが、今回お示しをしております大綱につ

きましては、前回お示しをした大綱から文言修正はしておらず、最終案として体裁を整えたものとしてお示しをさせていただいております。

採決をいただく前に、私のほうから今回の大綱についての思いを少しお話をさせていただきたいと思っております。

今までは、教育振興基本計画を大綱として同じく扱ってございましたけど、このたび教育大綱として市長としての教育に対する考え方をお示しをし、併せて教育振興基本計画と一緒に進めていくという考え方で作らせていただきました。これにつきましては、やはりこれから高砂市の教育を進めていく中において、基本となる考え方として市民の皆様方にもお示しをしていく必要があると考えております。市民と行政がそれぞれがこれからお互い連携をし努力しながら、またお互いの立場を理解し合って助け合い、また支え合い新しい価値観をつくるということができるよう、教育委員会とともに私も進めていかせていただきたいというふうに思っております。総合計画でも示していますように、市民一人一人が生き生きと学び、高砂市の未来にわくわくできるような高砂市の教育をこれから進めていきたいというふうに考えております。

どうぞ委員の皆様方におかれましては、何か御質問があれば、よろしくお願い申し上げます。よろしいですか。一応、前とは変わっておりませんので。

○山名克典教育委員

いいですか。何回もいろいろ大綱と教育振興基本計画に関しては議論させていただきまして、おおむね市長の基本の考え方も十分それなりに理解できるようになったんですけども、最後に予算のことが話題としてありますけども、単年度の予算とは違って、大きな流れとして市長の本当に今回「教育のまち高砂」ということを大きく取り上げていただいているんですけども、それに関しての今後実際、なかなかおおむねお聞きすると非常に基本計画と例年の積み重ね、地道な積み重ねで教育は進んでいくと思うんですけども、こういう言っていた「教育のまち高砂」という形で表題をきちんと書いていただいた以上は、それに対する市長の思い入れという形の、それをどれが市長が思い入れをしてる、それなりにここはやっていこうという予算の付け方とか、以前から言えますようにどんな形で目標達成、目標を持っていかれてるのがもう一つ何か以前から失礼ですけど、僕との腑に落ちない、イメージが合致しないところがあるんで。これからもこれに関しては言われたことを、結局いろんな計画からいくといっぱいいろいろなことをやっていかな当然で、市民パブリックの中でも先ほどの教育委員会でも言ったんですけども、パブリックの中ではやはり計画とかいうのはどこの市にやっても同じような計画で、それが他市の基本計画にあったとしても同じような計画が載ってるんじゃないかなようなパブリックコメントがあって、非常にそれはしゃあないなという、実際には国あるいは県、その教育方針に、教育基本計画に則って高砂市もそうしていつてる。それを乗り越えていく中、それをさらにプラスアルファで達成する何か目標、市長の思い込み、何かやっていただけることを期待して、こういうことで頑張っていこうかということですので、新たに今さらどうのこうの言わないんですけど、市長の思い入れを入れて、それを具現化するような形、施策をとっていただきたいと思っておりますので、それを期待してます。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

山名委員から予算の関係のお話もございましたけど、最後（３）で7年度の教育予算についてのまた御説明もさせていただきます。また、それと併せて小中学校の建物のやはり大分老朽化が進んでおりまして、その点についても大きな予算が必要になってまい

ります。ハード面とやはりソフト面、両方でこういった予算配分でやっていくかというのも教育部局とまた市長部局で相談を、協議をしながら今後進めてまいりたいというふうに考えておりますので、御了解いただきたいと思います。

ほかよろしいでしょうか。

どうぞ、吉屋委員。

○吉屋章教育委員

私もちょっと重複するんですけども、この教育大綱の中での「教育のまち」です。あえて市長がかぎ括弧を付けて教育、高砂といえば教育のまちなんだという「教育のまち」というのを出されたところの思いというか、その辺を最後に確認したいんですけども。市長にとっては教育というのは今のここである、今まで以上に教育に力を入れていくという意味合いだと思うんですけども、学力なのか生きる力なのか、教育といってもいろいろあると思うんですけども、市長がこれからの今のこどもたち、高砂市のこどもたちに何を教育、市長の教育という思いの柱をちょっとどの辺にあるのか教えていただきたい。

○都倉達殊市長

大綱と教育振興基本計画のほうでも、またお話が出てくると思っております。このたび教育長のほうからも非認知能力というようなことを私と一緒に御相談しながら決めさせていただいております、やはりこれからのこどもたちの将来に向けての教育というのは、勉強の数字、成績だけではなく、やはり社会に飛び出していくときのそういう非認知能力というような大きな枠組みの中での教育も当然必要になってくるだろうと思っております。そういった意味では、教育振興基本計画の中に生涯教育も合わせて、いろんな幅広く高砂市の教育をこれから進めていきたいというふうに考えておるところでございます。

○神尾信作委員

そのことを僕も今日お伝えしたくて、新聞持ってきたんですけど、1月17日がつい1週間前ということで、ここしばらくはそういう報道が多かったと思うんですが、今日持ってこさせていただいたのは、神戸新聞の1月17日の朝刊に入ってたやつで、何かというと、もちろん震災の特集で被災地発20人の言葉という25歳から95歳の方が若い人に伝えるということで、寄稿、文章を寄せているんです。これ僕読んで、まさに今の学力といわゆるそれ以外の非認知能力、数値に表れないもの両方がうまくかみ合わない、これから世の中大きく変わって、ひょっとしたら南海トラフが今の小中学生が生きてる間にはおそらく起きてまうんちゃうかな。そしたら、そこからまた何十年も生き抜いていく力を付けるには、その両輪がいるなと思ったんです。

例えば、それぞれの方が見出しを付けてはるんですけど、ちょっとだけ紹介させていただくと「神戸から恩返し 絆をつないで」、「辛いことも半分こ 人のためにできること」、「つなぐ そしてつくる」、「よく頑張った けどまだいけるよね」、「出会い つながって広がるこのまちのリズム」とか、「人とのつながりを大切に人間力」、「未来につなぐネバーギブアップ」。こういうことは全部そういういわゆる僕は非認知能力的な部分に入ると思うんですけども、だから学力をつくる力と生き抜く力を両方とも付けてあげないと駄目だなと思ったんです。

そう思ったときに、教育大綱の話に戻るんですけど、基本方針の(1)の①と②。①が主に学力的なことだと思うんですけども、「基礎的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力を育むとともに、地域の未来を考える力を育みます」の部分が、これ学

力的な部分で、②のほうが「主体的に学ぶ力、やり抜く力、自己肯定感、自分と他者を大切にできる力などの非認知能力の育成を図ります」これがまさに非認知能力で、これらが両輪になって、その両方をこれからの高砂市のこどもたちに上手に教育してあげることで、生き抜く力もできるのかなと思ったので、ちょっとこの新聞を見ながらそんなことを思ったので、今日はその話をさせていただきました。

だから、そんなことを思いました。以上です。

○都倉達殊市長

私もちょうど1月17日、追悼式典に参加させていただきました。いわゆる30年前に阪神淡路大震災が発生をしたわけですけど、今の20歳代前半の方含めて、それだけの方々、若い世代の方々が経験をしていないということで、今回「つなぐ」という言葉が1つ加わりました。いずれ起こるであろう南海トラフに対してだけではなく、やはり地域の絆づくりであるとか、いろんなことをこの一くくりにしてしまうわけではないんですけど、非認知能力というのも大変これから重要な教育の内容になってくるんじゃないかなというふうに思っております。そういう意味で、教育長ともいろいろお話をしながら、これから進めていかせていただきたいなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いします。

どうぞ。

○吉田美香教育委員

基本理念のここの文言なんですけど、「ともに育み」という文言なんですけど、これを実際に最終的にパンフレットを作られるときは、この大きさなんですか、文字。

○都倉達殊市長

パンフレットというか。

○吉田美香教育委員

パンフレットというか、冊子になるとき、もうちょっと大きくしてほしいな。

○都倉達殊市長

サイズをですね。それはまた事務局と相談。

○吉田美香教育委員

しっかり字を大きくしていただけたらと思います。

○都倉達殊市長

ほかの字の大きさとバランスを考えて。

○吉田美香教育委員

それと今、本当に質の高い教育というので学力と両輪で心も育ててという力強いこどもの育ちというのを考えてくださっているのはとてもありがたいと思います。それを実際にそばにいてこどもたちに教育する一番のキーパーソンは教職員ですので、教職員の人材育成ということもお心に置いていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

いろんな御意見いただきまして、本当にありがとうございます。

特に大綱について変更箇所というのではないということによろしいでしょうか。

それでは、今回お示しをさせていただきました大綱につきまして、御意見をいただきましたけど、このことにつきましては、御承認をいただいたということでありありがとうございます。

それでは続きまして、高砂市教育振興基本計画についてでございますが、高砂市教育振興基本計画（案）につきましてはパブリックコメントを行い、広く意見募集をされた後に、先日の策定検討委員会において承認をされております。次の教育委員会で最終承認されると伺っております。前回から少し修正されていると伺っておりますので、修正点について簡単に教育部のほうから御説明をお願いいたします。

○事務局

資料のほう 6 ページをお願いします。

このたびパブリックコメントを行いましたので、その内容について簡単に説明させていただきます。

第 4 期高砂市教育振興基本計画のパブリックコメントの実施結果としまして、市民の皆様から 1 1 月 2 7 日から 1 2 月 2 7 日の 1 か月間募集を行いました。

結果としましては、一般の方々から 7 人の方からいただきました。意見としましては、全部で 2 4 件の御意見をいただいております。項目別の件数としましては、計画全体に関する御意見が 3 件、基本目標 1 の学校教育に関しては 4 件、基本目標 2 の教育環境に関しては 2 件、基本目標 3 の生涯学習に関しては 1 4 件ございました。

また、小・中学生の意見としまして、6 0 人の児童生徒からいただきました。内訳としましては、小学校 1 年生から 3 年生が 1 人、4 年生から 6 年生が 2 1 人、小学校の児童会等として計画委員から 1 人となっております。

5 ページから計画全体に関する内容について、お示しをしております。

また、6 ページからは基本目標 1 の学校教育に関しての内容について、また 7 ページからは基本目標 2 の教育環境に関して、また 8 ページから基本目標 3 生涯学習についての記載も掲載しております。

また 1 2 ページをお願いいたします。

こちらのほうに小中学校の学生のアンケートの結果について記載しております。こちらのほうも教育でどのような内容をパワーアップして進めていったらいいかという文言で、アのアンケートの結果の四角の中で囲んでおります計画の基本的方針の 9 つの項目を挙げまして、その中から 3 つ重要だと思えるところを選んでもらっております。

結果としましては、中ほどに表がございました。小中学校合わせまして一番多かったものについては、②の豊かな心や元気な体、2 番目が①確かな学力、3 番目が⑥の I C T 教育・施設の安全・安心と快適の順に多くなっております。

小学生の意見としましては 1 2 ページから、1 6 ページからは中学生の意見をお示しをしております。

このパブリックコメントの内容については、一般市民の方々や小中学校の児童生徒から大変貴重な意見をたくさんいただいております。これらの意見を参考に今後の事業に取り組んでいきたいと考えております。特にパブリックコメントについての計画中の文言についての表記の修正は行っておりません。

続きまして、2 3 ページをお願いいたします。

計画の最終案についてでございます。前回の素案のほうをお示しをさせていただきまして、その後の変更点について御説明をいたします。

資料の３８ページをお願いいたします。

こちらのほうに施策体系をお示しをしております。こちらが骨組みになる部分になりますが、３つの基本目標、９つの基本方針、２４の方向性、主要な取組については、大きな変更は行っておりませんが、多少の文言調整は行っております。

次のページからになりますが、基本的な方向性というところで基本的な方針をお示しをしております。その右側の一番下のほうにＫＰＩのほうをお示ししております、前はこの部分が調整中という形になっておりました。今回できるだけ市民の方々に分かりやすいようにというところで、指標のほうを基本方針ごとに２つずつ設定をしております。

それらを踏まえまして、５９ページをお願いいたします。

それぞれの事業、ＫＰＩにつきましの計画的な方針や推進体制としまして、庁内関係部署と連携協力するとともに、教育課題の取組等について総合教育会議等を踏まえて実行と協議を行いながら取組を進めていきたいと考えておるところです。

計画の最終案については、以上でございます。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。教育振興基本計画についてもほぼ最終案ができたわけではございますが、私のほうから教育振興基本計画（案）に対して確認させていただきたいことや意見を申し上げさせていただいた後に、その後、教育委員の皆様方からいろんな観点からこの教育振興基本計画の案に対する御意見をまたお伺いしていきたいというふうに思っております。

私のほうから、実は今回、大学の共通テストで新しく出題科目が情報という科目が入ってきております。私のこどもたちも随分前の話なんで共通テストをそういうふうになっていくんだなというふうに思いましたが、やはり小中学校で今、ＧＩＧＡスクール構想、それとプログラミング教育をやっていくようになってきておまして、これは大学での勉強もそうですけど、社会に出て情報の収集とか分析とか、それがやはりこれから必要だということで、そういう科目が新しく入ってきたのかなというふうに思っております。

そこで教育長のほうに、この３９ページで教育環境の中で「教育ＤＸの推進に向けた学校教育の整備」という２－３－２であるわけですけど、こういったところで今後やはり教育の中で共通テストに情報が入ってきたことによって、まだ今すぐにお答えが出ないかも分かりませんが、どういったことでこどもたちの教育を進めていくことを考えておられるのか、少しお伺いしたいなと思っております。

どうぞ。

○玉野有彦教育長

ありがとうございます。

まずは市長、教育大綱ありがとうございます。本当にこどもらのために作ってくださったなというように思っております。

これからのこどもたちの生きていく力として３つの力が大切だということをおっしゃっております。言語の活用する能力、それから問題発見・解決していかうとする力、もう一つは情報活用能力ということが必要であるということが言われております。将来のことを考えると、市長が言われたように社会の中は本当にコンピュータとか、そういうＤＸで埋もれていくような社会になるかなと思っております。

そこで高砂市教育委員会におきましては、ＤＸの推進に向けて、まずは一番はタブレットの更新の時期になってますので、タブレットの更新をよりスムーズにしていきたい

と思っております。それと学校の今もW i - F i などD Xの環境も整えながら進めていきたいと思っております。

まずは、そのような周りの環境を整えること、それとやっぱり皆さんから御指摘をいただいているんですけども、それを教える先生方への支援がいるんじゃないかということで、I C T支援員も配置させてもらいながら、進めてまいりたいなというようなことを思っております。

もう一つ最後なんですけども、先ほどタブレットが更新が大事やと言ったんやけど、あくまでタブレットは道具として使っていくというようなことで進めてまいりたいと思っております。一人一人が自分の計画を立てて、自分が答えを見つけていくような個別最適な学びと、それといろんな人とタブレットの画面を通じながら、このような意見があるよ、これはどう思いますかみたいなことを話し合っていくような協働的な学びのツールとして使っていきながら、こどもたちに情報活用能力も付けていきたいというふうなことを思っておる次第でございます。それに高校又は大学に向かっていくこどもたちが、情報活用能力が付けていくものやと思っております。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。今、教育長のほうからそういったことでお話はございましたけど、委員の方々から、他でもよろしいんですけど、この教育振興基本計画についての御意見をいただきたいと思いますと思っております。どうぞよろしくお願いします。

吉屋委員、どうですか。

○吉屋章教育委員

私ですか。

今I C T教育の話ありましたけども、高砂市においてももちろん大分期間もたってるんで、1人1台端末、タブレットというのは、進んではいるんですけども、私から見るとできてるところはできてるんですけども、小学校と中学校、それから先生によっても、クラスによっても結構差があって、できてるところはできてますよって胸を張って高砂市も説明できるところがあるんですが、やっぱりできてないところになかなか目が向いてない部分もあると思うんです。その中で市長もこれまでも私ずっと市長にお聞きしてるんですけど、I C T教育そういったものは非常にこれから生きていく力を育むに当たって大事な分野だという認識は重々おっしゃられてるんですけども、その中で高砂市のI C T教育というもののスピード感というのについて、市長、どう思われてますか。それを上げていくには市長の思い切った予算措置みたいなものもこの後必要になってくるんですけど、今の状況どう見られてますでしょうか。十分このスピードで徐々に行ってるんだからいいじゃないかと思ってるのか、それとも、もうちょっと力入れていくべきなのか。言いにくいところあるかもしれませんが、今の市長の状況は、どういうふうに思われてるのか、I C T教育に関して聞かせていただきたい。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。最初ちょっと導入したときに現場行かせていただいたんですけど、その後ちょっと行けてないんで、今どんな状況で授業展開しているのかっていうのをあんまり認識してなくて申し訳ないですけど、プログラミングに関しましても米田小学校に現場を見に行かせていただきました。やはりこどもたちが興味をもって取り組んでいくことによって、価値観であるとか習得力というのは差が出てくると思うんです。それをやはり学校現場のほうで吉屋委員言われたように予算も必要なんですけど、どのような授業の内容にしていくかというところが一番大変重要だと思ってます。そこ

にこどもたちがやはり興味をもって楽しいねと言いながら蓄積していく、知識を。そういった授業展開を教育現場でしていけるような、予算も含めてですけど考えていきたいなというふうに思っております。

○吉屋章教育委員

こどもの興味やったり、先生の教える側の熱意とか資質とかにも関わってくると思うんですけど、やっぱりこれから今、教育長の話があったように端末の入れ替えであったり、実際に使われへん端末があって、それは代替機で足りてるとはいえ、実際には使えてない子もやっぱりいるわけなんです、現場によって。そういうところの一番下の下支えの、これもお金お金になるんですけど、その辺のところをしっかりと教育のまちですから、そこを私も高砂市で教育に使える予算があとどんなものかいうのを詳しいこと分からないんですけど、その辺のところのバックアップというか、ぜひお願いします。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。
ほか、山名委員。

○山名克典委員

今関連になりますけども、結局やはりツールとして使って、パソコンそのものをね。あとは先ほど言われました非認知の問題で結局、自立した中で自分でいろいろ考えてしていく形のときのツールをうまくどないして使っていくかの問題と、授業の在り方の問題で僕が想定するいろんな形あるんですけども、結局一人の子がそれなりのツールを探して、一つの問題を解き始めたときに、それをみんなで共有してそれなりの三次元的なものにせよ、いろんなことを共有して行って、一人の子が教えていくようなグループで結局ディスカッションというかしながら、ディスカッションして対等じゃなくて、やっぱり一人のある程度の明らかに言ったらすごく学力的な、例えば逆に言うたらあんまり試験の点は取れないけど、それなりの触ることによってすごくいろんなことの情報を引っ張り出して遊びの中からでも出てくるツールを使った形で、それを適応していく、みんなに教えていくようなことができたとしたら、その子の存在感が上がってくる。いわゆる個人個人の接続それぞれの多様性でみんながみんな、先ほどのICTのこの辺の問題と、その他の授業の中でも一人一人に合った多様性に対応する教育のスタイル、先生方の資質にもよりますけど、それとやはり本当に一人一人が見逃さない、誰一人も誰も見捨てませんというような形のいわゆる今の教育方針ありますので。

ただ、やはりスタッフがいないと、先生方が助けてもらえるスクールアシスタントにせよ、そういうのがいないと、特に支援教育の中で今からまた特別支援の話に入っていきますけど、特別支援やったら加配の先生とか、そういう人材がいないと、やはりすごく授業のやりにくさがあるし、結局、こども自体に対してその子に応じたコンタクトして教育内容を教えていく。その子のペースに合った形の教育いうものができなくなるので、そうするとすごく一人の子がインクルーシブってこういった問題あるかも分かりませんが、教室の中に一人おったとき、スクールアシスタントとしての先生がいらない。あるいは介助員がいらないとかいうことになる、授業全体が大変なことになるのは事実なんで、それにやっぱりそういうことはあり得ない。スムーズに教育ができる環境をつくるためには市長から努力していただかなきゃならないと思うんで、逆にその反面、クラスの中にそういう障がい者がおったりしたら、こどもたちはいろんなことを介助するとか、いろんなことを実際にやってくれて、話に聞くとそういった障がい者の方がおったりすると、こどもたちは一つのいわゆる非認知的能力をいっぱい高めてきて、やはり

それがこれからは普通の社会としてはこういう障がい者おるし、いろんなそういうことが当たり前だと、これが普通であって、何もない健全な形、あるいは何も問題がないような社会は異常だって、今からはいろんな方々がおる、それが普通の社会だということを感じていくという形が出てくるんで、何を言わんと言ってるのかよく分からなくなってきましたけども、やはり流れとしては先生方が特に教室なんかで教えていくに当たって、小学校のときにICTを利用するに当たっての問題と障がい者に対する接し方にしても余裕をもった形でいって、こどもは教育してほしいなと思うので、やっぱりそれは少人数的な形ができたらいいいし、できなかったとしたら、それなりのスタッフを配置できるような形で、それが高砂の教育だということで、他市にはないような教育システムを作り上げたら、できたらいいいなという理想もあるんで、そのように語りましたけど。

すみません。そういうことです。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。今、山名委員のほうからお話ありましたように、いろんな観点で御意見いただきましたけど、最後に令和7年度の当初予算の御説明もさせていただく予定にしておりますので、またそちらのほうで御意見いただけましたらと思います。ありがとうございます。

神尾委員。

○神尾信作教育委員

私は先ほどの説明やったら38ページの施策体系でいえば、3つ目の生涯学習のところが今気になりました。生涯学習、基本的な方針は3-1では大人からの学びとこどもからの学びの循環、2は地域をベースとした学びの充実。今日この後、部活動の地域展開という話もありますし、家庭学習と地域の学習力で本市がずっと持っていた課題であった学力の向上というところで、その辺は、僕は特に家庭学習がこれから手を入れて少しでも学力向上に寄与できる部分が一番そこがあるかなと思ってますので、家庭学習、地域の学習力というのを向上というのをすごく思いました。

それから先ほどちょっと言った部活動の地域展開についていうと、当然今まで中学校の部活動の役割の大きな一つとして、放課後の居場所づくりというのが中学校のグラウンドとか教室等々であったと思うんですけど、それが地域で展開されるということで、地域でこどもを見ることは当然増えてくるわけですから、そういうことから考えて、やっぱりうまく学びの循環をしていかなければいけないのかな。

あと当然、コミュニティスクールなんかも上手に使っていかなければいけないし、いろんなことを考えていくと、やっぱり地域とともに、また保護者も入れて一つの運命共同体じゃないんだけど、上手に循環しながら向上していくような、そういうシステムを上手に作っていかなければ、これから特にいけないのかなというふうに思っています。

○都倉達殊市長

今ので教育長、いかがですか。

○玉野有彦教育長

38ページの体系図を御紹介いただいて、生涯学習というようなところがあるんですけども、私は、ここはみんなで学ぶことを覚えていくことが大事やなというふうなことを思うんです。みんなで学ぶこと大事やなと言うたんですけども、それをこうしなさい、ああしなさいじゃなくて、大人が背中を見せながら進めていく。それを見ながら学んでいくような地域、市総がかりの教育を進めていきたいなという願いを込めて、ここに書

かせてもらってます。先ほど言われたように地域とともにある学校づくりとか、それとか御高齢の方の教育の機会の拡充とかいうようなことで、こどもだけでなく皆さんが学んでよかったと思えるような市になっていったら、教育が核になっていったらうれしいなと思って、ここはそのような形でまとめるんじゃないんやけども、願いを込めさせてもらっています。

○都倉達殊市長

ほか何か。

吉田委員。

○吉田美香教育委員

先ほどの教育DXのことなんですけれども、私も皆さんおっしゃっているようにICTというのは一つのツールだと、でなければいけないと思うんです。やはりいろんなことって自分の得意分野で生きていけばいいと思うので、読み書きが得意な人はそれで表現していったらいいし、しゃべること、言葉が得意な方はそれでいいと思うし、その一つとしてICTを使うということが得意な人は、それでいろんなことをしていったらいいと思うんですけれども、そのためには言葉をしゃべったり文字を書くのと同じぐらいに自然にICTが使いこなせなきゃいけないと思うんです。そこのところは、もう今の段階では世の中的には使いこなせる前提で使い方であったりとか、それからどう使うかという話になってる段階で、まだ使いこなせていないという部分があるのであれば、これは早急に当たり前に使えるようにしてあげなきゃいけないと思うんです。

ですから、もしも先ほど吉屋委員さんがおっしゃったみたいに、使い方に差があるのであれば、これは本当に憂うべきことであって、やはり教職員の方がそれをちゃんと使いこなせるようにこどもたちを指導するということに不安を感じていらっしゃるのであれば、それは絶対対処しなきゃいけないと思うんです。教育委員会と市のほうで。ですから、やはり教育長さんおっしゃったように支援員であったり、いろんな方法を駆使しながら教職員の方が、こどもたちが当たり前に使える状況というのをまず大前提としてつくっておかなきゃ次の話に行けませんので、ですから、そこのところはしっかりと本当にちゃんとみんなが同じように当たり前に使えてるのかどうかということは見ていかなきゃいけないですし、それを絶対にやらなきゃいけない。待ったなしだなと思ってます。

そうした上で、今度はそれを自分の何が得意なのかな、私どれを使うと上手に表現できるのかなというところに考え立ってもらって、そしてツールとして使ってもらおうというところに進んでいかなきゃいけないと思いますので、そこのところを是非ともきちんと徹底していただけたらなというふうに常日頃から思っています。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。学校現場のほうでもやはりお二方が言われたように、レベルの一定水準を差が出ないように教育長のほうにもお願いをしておるところでございます。また、ただ単にツールという位置付けだけではなく、その授業によってもやはりコミュニケーション能力であるとか、いろんな幅広くICTを使うことによつての情報共有も大切だし、そういったことを進めていきたいというふうに思っております。

よろしいですか。

それでは、様々な御意見ありがとうございます。教育振興基本計画（案）につきましては、本日の意見と教育委員会での承認を経まして、最終策定等に向けて取り組んで

いただけたらと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは続きまして、議題2「中学校部活動の地域展開について」をさせていただきますと思っております。

教育部のほうから資料の説明をお願いいたします。

○事務局

失礼します。中学校部活動の地域展開につきまして、少し参考例を使いまして説明させていただきますと思います。

まず、地域展開ということが言われているんですが、地域展開というのは中学生がスポーツや文化活動に継続して親しむことができる環境をつくることが目的となっております。そこで基本目標としましては、地域クラブを活用しながら環境をつくっていくこととここではしております。そのための方針としまして、1つ目は活動できる場・機会を提供することです。活動できる環境をつくることで選択肢が増えたり、生涯にわたってスポーツ・文化活動に親しむ基盤を構築したりすることが期待されます。そして2つ目としましては、持続可能な運営ができるような体制を構築することです。ただ、課題としましては、指導者のこと、実際に活動する場所のこと、費用のことなどが考えられます。

次に、活動の概要です。地域クラブの全体像、イメージとしましては、幅広い活動団体が主体となり、中学校の施設などを活用しながら技術の向上を目的としたり、趣味を楽しむことを目的としたりするなどの多様な活動を中学生に提供していく。それに伴いまして、学校教育の一環としてではなく、社会教育の一環として行う活動として位置付けるといったような感じを思っただけかなと思います。併せて、様々な地域クラブを取りまとめるための運営団体がここでは必要となってくると考えられます。地域クラブの募集や中学生への周知、指導者や活動場所の把握・調整に加えまして、指導者研修や推進に係る会議の開催などが業務となると考えられます。また、この辺りを民間に運営を委託する考え方もあるかなと思います。

次に、実際に活動します活動団体である地域クラブに関しましては、参加者の募集や費用の管理、保険への加入、その辺りの業務が課されてきますし、実績報告なども運営側に提出したことになるかと思えます。

これらのことを少し表にまとめております。位置付けとしましては、学校教育の一環から社会教育の一環へ。運営主体としてましては、今は各中学校ですが、これが運営団体や活動団体。指導者も今は各中学校の教員ですが、これが地域指導者へ。参加者につきましても、今はその学校その学校の生徒ですが、それが市内在住の中学生が集まるようなイメージとなります。

スケジュールなんですが、実際今、令和5年度から徐々に休日の部活動を地域に展開しているところです。引き続きまして対象部活動を増やしながら、また平日の地域展開も検証していく中で、令和9年秋以降、休日平日ともに中学校部活動を順次廃止しながら、10年4月に全ての活動を地域クラブに展開していくというような流れも考えられるかなと思います。

皆さん、このような資料を本日の資料の69ページに入れさせていただいております。こちらのほうは、姫路市の新たな地域クラブ活動であります「姫カツ」の推進計画となっております。姫路市では、令和8年度9月に休日の部活動を地域クラブ化し、令和10年10月から平日休日ともに部活動を地域クラブ化するプランをもう既に公表しております。1枚目の中段に書いてあるかと思えます。

2枚目を御覧ください。

2枚目の一番上なんですが、姫路市におきましても学校管理下で実施されている学校

部活動を学校管理外で実施する「姫カックラブ」へシフトしていくこととしております。このような動きが多く市の町で今進められているところです。

中学校教員へ実施したアンケート結果に加えまして、このように他市の状況等も踏まえまして、高砂市でもまた早急に方向性を示していく必要があるのではないかと考えております。小学校4、5、6年を対象にしましたアンケート調査も令和7年度早々に実施できるよう、現在準備を進めているところでございます。

以上、簡単ではございますが、地域展開について説明を終わらせていただきます。

○都倉達殊市長

資料の説明ありがとうございます。議題の2番です。中学校部活動の地域展開についてということです。

議論に入っていく前に、この問題につきましても私のほうから意見といいますか、考え方を述べさせていただきたいと思います。

2年ほど前から市のほうでもこの地域移行について進めているんですけど、なかなか受皿といいますか、スポーツ協会をはじめ文化連盟のほうにもお話しさせていただいておまして、徐々には今御説明のあったように土日について対応していただいているところもあるんですけど、教育長のほうと早くしていこうということで今協議をしているところでございますけど、教育部としても今の説明がありましたようにスケジュール感をもってこれから進めていく方向で考えております。

そこでやはり一番大事なのは、こどもたちの今までの学校でのそういった部活動が、地域の方々、また所属、いろんな競技体の方々にお世話になるということで大きく展開をしていくわけですから、一番心配なのはやはりこどもたちの競技に対する変化に早く順応できるように進めていくのが大事だと思っております。その点については、やはり学校現場もそうですけど、市として令和10年を目指して進めていきたいというふうに考えておりますので、またいろんな御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

山名委員。

○山名克典委員

この地域展開に関しては、流れとしてそういうふうになっていくんだろうという形はあるんですけども、問題なのがこのスケジュールの中で先ほど市長言われましたように、受皿がどれだけあるのかということもありますけども、それはこれからいろいろ努力していただいて、住民あるいはそれなりの組織の方々が協力してくれてやっていけるようになっていくんだろうと思いますけども、あとこの問題でなったときに、実際、中学生そのもののスポーツ経験というか、スポーツクラブあるいは極端にいうと地域展開になると地域スポーツ、地域クラブみたいな形になっていく。あるいは俗に言ったら言葉悪いですけども、月謝払ってそれなりの団体でやっていく、費用払ってしていく形になる。特に文化的なものだったとしたら、お茶あるいはお花あるいはその他いろんなことにしても今の団体として、皆様が地域の生涯活動としてやられているような形と連携するような形で文化部をしていくんだろうと思うし、音楽的なものもまたクラブがあったらそこに入っていく。そうしたときに、やはり参加費それなりのものは当然出てくるんですけど、そういうのは先の問題としてあったとして、今そうしたらその時点で気にするのは、中学生が地域展開された所に本当にうまく入っていけるような形、導入というか、そういう形のアクセスの仕方というものをきちんと道筋を立ててあげないと、ついついそういうクラブ活動的なそれが地域展開した分に関しての参加ががたんと落ちるんじゃないかなという懸念があるわけです。実際に、それぞれのスポーツのこと、学校で

やってないことになってきたら、平日も土日も全部全て学校帰りに行ったときに、体育教育の中ではそれなりのいろんなスポーツの体験、どんなふうにスポーツルールにせよ、どんなふうにするかというのは、多分触り的な形で体育の時間の中でサッカーなり野球なりいろんなことはそれなりの経験して教えていってもらえるようなことはあるんでしょうけど、なかなかそれなりの知識を得られて、結局そうしたらそれに対して前からの僕の持論では、本当に今のクラブ活動があったとしたら、こどもはいろんな多種のクラブに入っているですよという形で、すごい縛りのあるクラブ活動じゃなくて、自由に今学期、あるいはこの1年間はこのクラブ、そして来年はこのクラブ、いろんな多種、いろんなクラブ、スポーツとしても経験していっていくような形が、その子にとって適正したものがどれであったかということを探し当てることもできるし、体の筋肉、いろんなことに関して、やっぱりそれは大事だろうなと思ってる考えがあったんですけど、こういう地域展開したときはその難しさのがあるのがあって、僕の考え方がちょっとこれは時代の流れとして認めなきゃならないそういうのもあるんですけど、今後、実際に中学生にとってそういうスポーツだったとしたら種目を選びにくいし、今後、先ほど言いました二つのクラブ、二つのスポーツをやっているという形が逆にとりにくくなっていくなという、専門的な形になっていかなのかなという懸念があるんです。ほかのクラブに関しては、例えば、音楽、ピアノ、あるいは習い事としていっぱい、言葉悪いですけど習い事やってることは二つ、三つ、水泳しながら、あるいはピアノ、お茶、お花を習いながらいう形は、今はいろんな形はやってる方々、こどもたちがいっぱいいますので、その中でそれを地域展開したクラブとして拡大していくような形で、これは認められていくのかなという。行く行くは大きな話として、そういう言葉悪いですけど音楽活動とは別でスポーツクラブだったとしたら、人数とかあるいは資格者、あるいはそれなりの条件、いろいろ今後の大会とかいろんなことに対する要件を満たした形のクラブいうものが当然認定されていって、どんどんそういうのできてきて、今後の大会とかいうものに出ていくような形のシステム、体系ができていくんでしょうけど、今先ほどから言った地域展開したらこどもたちが本当に全部そこに入っていけるだろうかという懸念が今すごく思ってるんですけども、どうでしょうか。

○都倉達殊市長

教育長のほうから現状を御説明。今の山名委員の御心配されてる点。

○玉野有彦教育長

現状。

○山名克典教育委員

現状じゃない。

○都倉達殊市長

これからの話も。

○山名克典教育委員

だから、ごめんなさい、もうちょっと。今言われたように、今試験的にやられてることも知ってますけど、結局全てが地域展開したときには、こどもたちがどんなふうな形でその地域のクラブ、それなりの展開された所へうまく参加していけるのかどうか。

○玉野有彦教育長

私もそれはちょっと懸念しているところです。そうなっていくと、受皿というか指導者の活動の団体があるかどうかになってくるかと思うんですが、ただ他市の状況を見ますと、もうここに掛川市のそういうような体制ができている分もあるんだけど、そこはソフトボールクラブがあります。こちらに兵庫県の川西市のところがあるんですが、こちらにはソフトボールクラブがありませんということになると、やっぱり地域でできないものもあるかなというようなことは思います。ただ、できないものがあるんやけども、幅広さはやっぱり確保していかないといけないから、まずは休日からこんなやりたいなという活動、やりたいなという人を公募的に広めていくということがいるような感じもします。だから、したい人どうですかみたいな感じで活動団体になってもらえ人を募るというのも大事な事かなというようなことを思うのと、当然、協会さんにもお声をかけながら進めていかなあかんのかなというようなことを思っているところです。

ただ、まずは活動体験から始めるということがとても大事な事かなというようなことを思うので、こどもがチョイスできるボタンがいっぱいあったらいいかなと思うのと、山名委員おっしゃるように種目を選ぶんやけど、2種目選べるというのも面白いかなと思って聞いていました。

その辺、今から他市の状況を制度化した所を基にしながら進めていきたいなというようなことを今現在考えているところです。

○都倉達殊市長

よろしいですか。

○山名克典教育委員

ちょっと今とはまた違うんですけど、今の考え方としてクラブが学校にないという形になったときに、在校生に対していわゆるスポーツそういうものの教を体育の中でいっぱいしなきゃならなくなるということ。それで結局、地域展開してるクラブといいますけど、それに対しての先ほど言われたようにどんなんがあるということの説明、オリエンテーションすごくしていかないと駄目だし、だけども距離感があって、学校の中での問題と地域の中でのアクセスの仕方の問題で、多分その頃の中学生はとりわけの煩わしさ伴ってきてたとしたら、地域のクラブへは入ることが少なくなるのかなという感じで、だから今のクラブ活動に参加してる生徒数、その数とその後には地域展開したクラブへの参加の数とは極端に減ってしまうんじゃないかなという、すごく懸念があります。もういいやという感じで、煩わしいし、お金いるしという感じで、実際には自分でアクセスいろいろすれば入っていいんですけど、前から問題になってる月謝というか、その辺の年間会費という形のものを払わなきゃならなくなったとき、スポーツにせよ、文化活動にせよ、文化的なものにせよ、それに対して参加しないという生徒が多くなるでしょうね。そうしたら、この子たちにどうしたら、これが時代の流れとして放っておいていいのかどうかということが出てくると思います。学校でどれだけ逆に例えばサポートしだしたら、結局何のための先生の労働時間の問題、いろんなこと、負担軽減って言うてたやつが、やっぱり何か参加しない子たちにそれなりのアドバイスのもの、あるいはちょっと軽い指導するような形のしなきゃならないようなことが起こってくるのかどうか。そこはやはり難しいところかなと思っております。

○都倉達殊市長

どうですか。今のお話で。

○玉野有彦教育長

お金、費用の面が課題であるということは思うんですけど、費用の面の何らかの補助的なことも、そこは受益者負担を基本にしながら、そこら辺は考えていかなければいけないことかなとは思いますが、ただ中学生の数が多い反面、そこを全て助成というのも難しいかなと思うので、基本は受益者負担になるんやろうかなというようなことを思っています。

もう一つ、いろんな種目をやっぱり与えてやりたいということで、お金のかからない種目もあってもよいのかなみたいな感じ。例えば、地歴的に歴史を調べるところとか、いつも言われていますボランティアのクラブであるとか、そんなのも一つの種目になっていってもよいかなみたいな形で思って、最後はどれだけ呼びかけるかが問題になってくると聞いてました。

そんな感じです。

○都倉達殊市長

ほか。

どうぞ、吉田委員。

○吉田美香教育委員

すごく高砂市って部活動のレベルが高いじゃないですか。特に中学校。いろんな地域、都道府県にいる友人なんかと連絡を取り合うと、かなりやっぱりここレベル高いし熱心だって皆さんおっしゃるんです、比較して。その状況を民間委託して維持するというのは、私は不可能だと思うんです。先生方の善意で、それとこの地域の歴史で成り立ってきたことで、これをずっと維持するというのはちょっと難しいと思うんですけども、日本の部活動というものの歴史をずっと勉強してみたんですけど、ある時期、前の東京オリンピック、1964年の。その前後からすごく勝利至上主義になって、国内全体がすごい部活に力を入れてやってしまった時期があったみたいで、それがあんまりひどいんで今度、大衆化させようということで部活動というのを1回ちょっと廃止じゃないですけど、平たくして授業中に、先生方が授業として1時間なり2時間なり部活の時間というのをとって、先生方が授業として公務として教える。指導するか見守るか別なんですけど、こどもたちも授業としていろんな部活を体験できるというようなことをやってた時期があるんです。それがずっと続いていけばよかったんですけども、学校5日制というのになって時間的にちょっとスリムになったときに廃止されてしまって、また放課後の課外授業になったんですけども、そういうことも一つのヒントかな。先生たちの働き方改革という意味でも、授業中に組み込まれていけば別に残って時間を費やす必要もないですし、生徒たちもそんなに肩肘張らずに、じゃあ今週はあれ参加してみようかな、来週はあれ参加してみようかなみたいな感じで、時間も授業中内に終わりますし、というような方法っていうのをやってた、日本中がやってた時期というのがあるみたいなんです。すごい古い1980年代とかそういう頃みたいなんですけど、それも一つの方法なのかな。そうしたら先生たちも時間外勤務をしなくていいし、生徒たちも多分このまま地域移行していくと、やっぱり部活に入れない子っていうのを私はかなり増えると思うんです。変な話ですけど、やっぱりお金がかかってくると思うんです。指導料というのは実費プラスになってくると思うので、そうするとやっぱりちょっと言い出しにくい子もいると思いますし、そうなってくるとやっぱりすごくかわいそうだなと思うんです。中学校になったら部活でできるって思ってる子っていっぱいいると思うんです。少年野球とか少女ソフトボール見てても、お母さんがお仕事でお忙しいと当番ができないから入れない子がいるわけです。でも、中学の部活だったらできるかもって期待をもっ

てる子もいると思いますし、そういう子たちの気持ちをかなえてあげたいなって。誰でも経験できるというチャンスを作ってあげたいなと思うので、そうするとそんな方法しかないのかな。それで、それ以上やりたいっていう場合は放課後に地域移行したところについていう形とかいうことも、すごく大きく考え変えていかないと、これはちょっと実現難しいんじゃないかなというふうに感じています。

○都倉達殊市長

何か私、昔、全校クラブ事業というのがあったんです、中学校。私のちょうど中学校時代に。だから、1週間のうち1時間だけ好きなクラブを選択してやってたときありました。そのことだと思います。ただ、私も詳しく今の現状を知らないんですけど、年間の授業の配分、スケジュールの中でなかなかそれがもうできなくなってしまったということだと思います。

教育長、そういうことですね。全校クラブがとおっしゃったけど。

○玉野有彦教育長

市長が体験されてるんやから私も体験してるやろうなと思いながら聞いてましたが、そういうような方法も一つですが、私が思ってるのは今の中学校の部活動の形をそのまま地域に持っていくことは私は思っていないで、そこは難しいかなと思って、ほんまに新たなクラブの活動になるような方向性を地域で展開してもらおうような、移行じゃなくて展開になっていくような形がよいのかなというようにも思っていますが、そこら辺、課題はいっぱいあると思います。

それぐらいでいいですか。

○山名克典教育委員

いいですか。前から言ってる各種大会の多さ、それをいかに減らして、結局、勝利至上主義というか、その大会に出たいがためのクラブ活動というのがあった分を、いかにそれを地域展開したときに、それに出ていきたいクラブもあるやろうし、そういうのはしなくていいという形で思うような、先ほど言った参加する資格を持つような形の人数なり、あるいは練習体制、あるいは指導者の資格の問題、スポーツ指導員とか、いろんなことがあって大会に出ていけるような形、そういうシステムが今後出てくるんだろうと思いますけど、中学校単位ではできなくなると。そういうものの結局、今後の体系いうのを僕はどちらかといったら同好会でいいという形のすごく考え強いんで、大会に出るのはしんどいなという感覚があるんで、ちょっと怠け者だからきついところになってきたら大会ええわいう感じで離脱したこともあったりするんであれなんですけど、結局やりたい子はどんどんどんどんしていくだろう。地域展開したときに、それなりの体系を、システムどんなふうな形でいろんな大会へのエントリーの仕方というものの、クラブはそっちに地域展開したけど、あとそうしたらこの子たちのやりたい、一生懸命に全国大会それなりのものまで、極端なところまでいろんなことやりたいんだという形の子たちに対する地域クラブから中体連とか、あるいはどんなふうにしていくのか。中体連いうのはなくなってもええかなと思ったりはしてますけど、そういう大会を極力減らして、どんな形で今後いろいろ技量、技術を向上させて、オリンピックまでとそんなことと言われる自分の能力をどんどんどんどん高めたいという子たちのこれからの道筋、のぼっていくそういう形の分、プロセスしていく、そんなシステムを明らかに明確な状態で提示したらんと難しいですよ。

○都倉達殊市長

神尾委員。

○神尾信作教育委員

僕はもっと足元の部分が気になってるんです。具体的に言いますと、一日も早くスケジュールとか、ここの展開、そういうところを情報発信しないと、こんだけ情報がいっぱいある中で本市の分が抜けてるような気がするんです。実は、自分、小学校6年生のこどもがいます。当然この時期ですから中学校の部活は何するのという話をいっぱいしてます。保護者、自分のこどもたちもそんな話してるねんけど、結局、何するか分からへん、どうなるか分からへん。小学校の先生に聞きました。小学校の先生も「いや、ある部もあるし、ない部もあるよね」ということで結局要領を得ない。小学校6年生のこども、保護者、教師が明確な情報を持ってないということなので、本当にこんがらかってしまってるなと思ってますので、一刻も早い具体的なスケジュールを出していかないといいと思います。

先ほど室長さんからのプレゼンテーションというかパワーポイントの中でちょっと気になったことが二つ三つあって、1つ目が9ページのここにスケジュールが出るんですよね。先ほどの説明だと令和10年4月からは廃止してクラブ活動がいく。その中で、こういう流れも考えられるかと思いましたという、その言葉。あと、早急にスケジュールを発表する予定ですよという、早急に。早急にスケジュールを発表する予定ですよって、早急という言葉が使われたと思うんですけど。

○玉野有彦教育長

早急というのは言うてんけど、スケジュールを発表じゃなくて、システム構築をしていきますと言われたと思います。

○神尾信作教育委員

はい。小学校5、6年生のアンケートは、これはどんな言葉でした。これも。

○玉野有彦教育長

来年度には、こんなことをしようかなと思っているという表現やと思います。

○神尾信作教育委員

ということは、今の6年生は対象外。来年度ということは、今の6年生はそのアンケート対象には含まれない。

○玉野有彦教育長

そこを児童とするのか、児童生徒とするのかを今ちょっとまだ考えているところです。

○神尾信作教育委員

そういうところから含めると、それともう一つ、この2月、3月になると小学生が進学予定の中学校に行って学校説明会というのがあるんです。そのときには部活体験なんかをするんですけども、そのときに、これもこの前も教育委員会で出た話ですけども、当然、保護者は「部活動どうなりますか」、「この部活動ありますか」みたいな。保護者の方はよく知ってはって、この部活動のこの担任の先生はもう今年8年目やから、9年経ったら異動やからなくなるんちゃうみたいな、そういう話を全部持ってはるんです。ほんなら、それプラス部活動の地域展開という話が絡まってくると、来年の部活動どんなあります。校長先生とかその担当教師が、皆さんが入ってこられるこの4月は今

と変わってませんという説明をされるらしいんですが、保護者は1年間のつもりで言っていないから、当然部活動は3年計画で思ってるので、じゃあ3年後はどうなりますかという話になるんです。でも、それに対しては答えられないと思うんです。となると、やっぱり本当に早くスケジュールを出してあげないと、今の小学校6年生はもちろん、5年生、4年生もやっぱり混乱をすると思います。

実証研究という話があるんですが、本市でも三つ四つされてるみたいだし、先ほども教育長さんおっしゃったように、いろんな市町が十分実証研究してるから、そこと本市が特別変わるとは思えないので、なので僕はできるところからどんどんやったらいいと思うんです。

ちょっと話が長くなって申し訳ないんですけど、本市の中学校の教師にアンケートをしてるんですよ。その結果を多分皆さん御存じだと思うんですけど、未回答が3分の1以上ある。これは多分、教師も情報をもっていないからだと思います。

○玉野有彦教育長

すみません。未回答じゃなくて悩んでいる。

○神尾信作教育委員

悩んでいる。そう。悩んでいるが3分の1以上ある。

それからやりがいを感じるか、67%がはい。指導に負担を感じるか、86%がはい。休日や祭日も含めて平日の指導に関わる気持ちあるか、15.6%がはい。こういう状況ですよ。ということは、今の中学校の教師も随分悩んでて、指導に困ってて、できたら早く地域展開したいなと思ってるなと思います。

その一方、もし地域展開して関わりたいですか、どんな部がありますかといったときに、例えば吹奏楽部は6人いるんです。地域展開したらやっぱり2、3人の複数の指導者は欲しい。ほんなら今現在でも6人いる。陸上は5人。サッカー、テニス、バスケ3人とか、そういうデータもちゃんとあるから、じゃあその辺は地域展開していっても十分対応できるのか。その指導者の面だけですけど、今僕が言ってるのは。でもそれは、そういう指導場所があったり、それなりの施設があればいける部はもうあると思うんです。ですから、そういう具体的なこれからの予定をどんどん発信して、できるところから僕はやっていただけたら、そのいろんな不安感もどんどん減るんじゃないかな。そんなことを思ってます。

○都倉達殊市長

私のほうからも教育長にできるところから進めてくださいというお話はしてます。今、神尾委員からおっしゃられたように、吹奏楽についても連合でやるのか、指導者がもし今の先生が御指導いただけるのであれば、A中学校とB中学校一緒に二人の先生が見ていただくとか、ほかのスポーツでも言えると思うんですけど、いわゆる一つの学校の一つの競技を一人の先生が今まで指導されてた。今、野球でも連合チームになってますけど、そういった形のチーム制が必要になってきたときに、学校の教員の方がそこに関わっていただけない場合は誰がじゃあ指導するんだという話を早く進めないといけないと思っております。

○玉野有彦教育長

御意見いただいて、不安な思いもさせてるなというようなことを感じました。ありがとうございます。

まずは、アンケートを取ったりとか保護者の方への情報提供も進めながらしていき

いなと思うんですが、ただそのシステムをやっぱりもんでいただくように教育委員会の場で検討いただき、また市長にも十分な情報提供もしながらも、案を練ることが大事だと思います。いろんな案が今降ってきたなと思ってうれしく思っていますが、頑張っていきますのでよろしく願いいたします。

○都倉達殊市長

吉屋委員、何かありますか。

○吉屋章教育委員

はい。まあまあ皆さん今意見出そろったから。私もスピード感ですね。これは市長に申し上げることじゃなくて教育委員会のほうでもんでいって動いていくことやと思うんですけども、まずはこの部活動自体が実際これからの時代に要るんか要らんのかという話で、前回かな。私、市長にちょっと質問させていただいて、「市長、部活動どうですか。実際に地域移行とかいう流れになってますけども、これいるんでしょうか。どう思われてますか。」って言ったときに、市長は「やっぱり部活動はいる」っていうお答えやったと思うんです。ですよ。私もそうで、というのは野球やサッカーだけと違って、先ほどスライドにもありましたように、今までの部活動というものの自体が学校教育であったものが社会教育に変わっていくんだという、その考え方、そっちの方向で先ほどの教育振興計画の中でも非認知能力とかこれからを実際に生きる力、そういうもの、社会教育ですね。それをどこで育むかというときに、学校ではもうなかなかそういったことまで学校以外の社会に出てへん若い先生に今の生活が多様化した保護者も含めた子どもたちに社会教育するのは難しいから、そういう場としてスポーツだけじゃなくて部活動という形、これはもっと幅広く選択肢は増やしていくべきですけども、そういった体制ができた中での部活動というのは非常に大事であるというふうに私も思ってるんですけど、やっぱりそれに対しての先ほど神尾先生が言われたようなスケジュール感ももちろんそうなんですけどビジョンです。受皿を今探してる途中で、なかなかそういう受けてくれるところが見つからない、指導者が見つからないということで苦労されてるみたいなんですけど、その示し方が私もちょっと聞いてるんですけど、この中でやっぱり資格。例えば、何をもって部活と認められるのか。お花とか書道とかいろんなこと文化部ありますけど、何をもって部活動と認めてもらえるのか。それから子どもたちに教えていくに当たって、最低限何か資格がいるのかとか、あと回数はどれぐらいしたらいいのかとか、どれぐらいの人数を見てしてあげたらいいのか。あと報酬です。お金はどうなるのか。そういうことが示されてない中で、高砂市で決まってない中で、それやったら受皿は見つからないと思うんです。やってあげようって、やりたいなっていう気持ちがあっても分からへん。だから、そこはほんまに市長に申し上げることじゃないんですけど、この前の教育委員会の中でもちょっと議論させていただいて、そういう方向性という話はしてるんですけども、市長のほうにもやっぱりこの中での報酬です。ほかの他市町見てもやっぱりボランティアではなくて、ボランティアでは持続していきませんので、ボランティアという観点のはのけてどことも進めている中で、結構なやっぱり最初に予算を取ってるんです。それは日にちで日当にするのか、時給にするのか市によっていろいろですけども、やっぱりしかるべき予算があって、1時間当たりこれだけの報酬出ますよ。だから、この人数でしてくださいみたいなお金のほう、これも教育委員会から市長に要望するものだと思うんですけど、お金の部分と、それとスケジュール感とかビジョン、高砂市としてのビジョンというものをやっぱり示した上で、とにかくさっき神尾先生言われたように、いち早く、このスケジュールでいくと令和10年から本格的に始まるみたいなんですけど、その間10年までに宙ぶらりんになる子が結構な数が

出てくるわけです。選択肢もないし、何しようかな、じゃあやめとこう、いう子がやっぱり結構な数が出てくると思うんです。だから、いち早く。課題はかなり多いとは思いますが、実際に動き出してる市町、近くにもあるじゃないですか。まだ完璧じゃないけども、選択肢が増えて、その中でスポーツだけじゃないけども習字習ったり、お料理教室とか、そんなんも部活に入れたりしながら、そんなんで自分で選んで実際に今、地域移行して、地域展開している部活で体験してるこどもたちがほかの他市町にいます。だから早く、僕も一番気になるのがスピード感をもってこれやっていかな、間の子が。いつかは絶対、令和10年にはできるんですけどもね。ほかの町を見ながら、こうやってん、こういうふうにやってん、じゃあ高砂市もという形でできるんでしょうけど、その間の期間のこどもたちをやっぱり放つといたらあかんと思って。だから市長のほうに、また僕お金のことばかりですけども、思い切った最初の、結構な金額の予算がいると思うんですけど、その辺もちょっと踏まえて、またお願いしたいと思います。

○都倉達殊市長

市のほうから予算という考え方については、私は仮にスポーツ協会の単位協会であるとか、文化連盟でも茶道とか華道とか、その単位のところにそういう予算を付けて委託するとか、どんな形が一番いいのかちょっと分からんですけど、今、協会にも市から補助をしてるわけですけど、その枠の中で予算を出して、そこで決算を発表してもらおうとか、いろんな仕組みをまず作るということが大事だと思います。だから、Aさんをお願いしますというのはなかなか難しいですよ。

○吉屋章教育委員

もちろんそうです。ある程度、教育長の言われるように受益者負担というところもあると思いますし、その会費とかも含めながら。

○都倉達殊市長

その仕組みを。

○吉屋章教育委員

だから何よりも仕組みと、そうですね。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

○山名克典教育委員

いいですか。

○都倉達殊市長

はい。

○山名克典教育委員

結局、組織を作り上げるということがやはり非常に大事だと思います。やっぱり仕組み、いわゆる体系を作るのにどうしたらいいのかという形、そうしたときに年内の今、スピード感と言ったときに、今のスタッフでいいのかどうか。いわゆるもっと積極的にするに当たって、いろんな情報を集めるためには人材が必要だと思うので、それが市長の取組の意気込み、あれですよ。心だと思うんです。結局どれだけやる気あって、予

算を付けていっても、予算の話になりましたけど、やはり今、予算付いてない。それに対しては本当に研究的な形で予算付いてなくてスピード感言われても、多分なかなか難しいところがあると思うんです。やはり人が多く介入して、それなりの受皿を掘り起こす必要も。やはり人は必要だと思うし、関わっていろんな情報を集めるには大変なことだろうと思う。やっぱりそれにまず先立つのは、お金のある程度の方が、いろんなことが、教育委員会の協力してやってるといっても、今言ったある程度の大枠はどのぐらい形で出ていくか。それなりのどんなふうな形でつくられていくんだらうという組織、今後のその運営の仕方はどんなふうにしていくかという形の、それなりの大枠、ビジョンが形として見えないとなかなか。今何も一貫した一つの、いわゆる一人の個人個人に対しての時給で何ぼという形で、1日4,000円か5,000円やったか出てるような形の状態でなってますけど、それとは違ってクラブ活動としての地域の中でしていったとしたら、市としてはそれに対しての総額でどのぐらいの予算は覚悟してますとかいう形のものを示していただかないと、なかなかその口説いてお願いしていく形も難しいかなと思うんです。やはりそこが大事やと思う。金出してください、金出してください、やっぱりそれじゃなくて、市長の結局考えで、これはやはりこのぐらいは絶対将来的に在るだろうという形の概算、頭の中で多分当然おありやと思うんで、そういうのを示していただいて、動いていくとしたらこうなるんですよ、金額的にはこうなりますよという形のそういう概念、どう言ったらいいんですか。予算の枠のそれなりの、行政的にはどう言うんか分かりませんが、大ざっぱにこれぐらい在るだろうから、そういう形で動いて組織を作り上げていくような形を考えてやってくださいというゴーサインを出していただいたらうれしいかなと思うんですけど。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。私のほうから漠然とこれでやりなさいというのは、やはり積み上げてもらわないと、それはなかなか。

○山名克典教育委員

ごめんなさい。積上げが結局、そこはどっちがどっちで、卵と鶏やと思うんで、結局ないのにどないしていくか、1個1個積み重ねていくのもそれは事実ですけど、それを大枠どこまで行ったらいいんだらうという形の概算的なものがあったもいいんかなという気もする。それを音頭取って、市長がやっぱりこれは非常に大事なもので、緊急を要することだからということで、陣頭に立ってやれ、やってくださいという形を言っただけだったらありがたいなと思います。

○都倉達殊市長

それは常に教育長と言ってます。なかなか進展してないのが事実ですけど。ただ予算枠云々に関しましては、どうしてもいろんな競技種目、文化も含めてですけど。だから内容は千差万別にあります。だからそこをどういうふうにやっていくかということの内容をまず固めていくことが必要だし、今問題になっているのは、山名委員からもお話がありました中体連であるとか、中学校の全国大会でもこの競技種目は全国大会なしですよというのももう発表されてますので、そういった将来的には勝利主義、そういうものもなくなるわけではないんですけど、野球でいう甲子園出場するとか、どっか中学校でそういうクラブチームに入っていくとかいう流れになるのではないかなというふうにも思ってます。中学生でもクラブチームに行って硬式をやってる選手もいますし。全部の種目がそうではないんですけど、剣道、柔道においては、スポーツ協会の剣道、柔道の協会によって予算をこれぐらい必要だから面倒みますよとかいうような内容でまとめて

いただいた中で、どういうふうに市が予算化していくかという話になろうと思います。
教育長。

○玉野有彦教育長

皆さんの御意見を聞きながら、ある程度のロードマップが浮かんでいるようになったかなとも思うんですけども、ある程度この中学校部活はこれで終わりやでというデッドラインを決めていかないと、ほんまに皆さんが盛り上がってこないような状況であるということは、私は思ってます。その根拠となるのが、協会さんにいろいろ聞いてみたところ、ちょっとうちの協会ではできにくいとか、うちはできるよとかいろいろ協会によってまたあるので、協会にお金を出してくださってることはありがたいんですけど、それも一つの方法としていろんなお人方にも声をかけて、市民皆さんで応援してくれるような体制が必要かなというふうなことも思っていますので、その辺ちょっと考えていきたいなというふうなことを今日ここに参加させてもらって感じました。

また市長にも十分な情報提供もしながら、一緒に進めてまいりたいというようなことを反省を込めて話させていただきます。ありがとうございます。

○都倉達殊市長

いろんな御意見ありがとうございます。パワーポイントで見ていただきましたとおり、今現在はなかなか進んでいないわけですけど、スケジュールに合うような形で高砂市のこの地域移行についても今後、私も教育委員会と一緒に進めていかせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは続きまして、議題3「令和7年度の教育予算について」に移りたいと考えております。

それでは、教育部のほうから資料の説明をお願いいたします。

○事務局

71ページをお願いいたします。

令和7年度教育関係当初予算についてです。令和6年の11月28日に教育委員会から市長に対し要望書の提出を行いました。その要望書の重点要望事項に対する来年度予算の計上について御説明をいたします。

(1) 学校施設の補修工事等につきましては、個別施設計画に基づく各小中学校補修工事費等としまして、受変電設備改修工事や空調設備改修工事など設備の耐用年数に応じて計画的に改修計画を立てているものについて、今年度からの繰越しも含め4億4,560万円計上しております。また空調設備改修工事等に伴うアスベスト調査につきまして379万円、また各小中学校外壁緊急対策工事につきましては、昨年、小学校のひさし裏のコンクリート落下を受けまして、全小・中学校緊急調査を行った結果、改修工事が必要になったもので、7年度対応の費用としまして5,490万円となっています。また旧荒井幼稚園整備工事では、旧荒井幼稚園舎を荒井小学校の校舎として活用するための改修費用としまして2,690万円、また各小中学校体育館空調設備借上料、各小中学校に空調設備をリースで入れるための費用となっております。こちらのほうが、8,021万円です。合計6億1,140万8,000円となっております。

また(2)の情報教育の推進事業としましては、令和元年導入のリース期間が終了する校務用端末・周辺機器更新借上料として1,301万3,000円、また各小中学校の児童生徒用の学習用タブレットの更新借上料としまして5,084万8,000円、また視覚障がいがある児童生徒に対して対応するための支援ソフトとしまして、入出力支援装置購入経費が20万8,000円。合計6,406万9,000円となっております。

ます。

また（３）の部活動地域移行推進事業としましては、学校と各種団体等と連携して地域へ部活動を段階的に展開していくための費用としまして、４５５万５，０００円となっております。

また（４）学校給食費の食材高騰分の負担軽減としまして、原価高騰による保護者の負担軽減をするために値上げ分を市が負担するものとして３，８１８万７，０００円を計上しております。

また（５）特別支援教育に係る支援員の充実では、介助員の配置事業としまして、現在２０名のところを４名増員する費用として１，３２１万９，０００円、またスクールアシスタントの配置事業としまして、現在１７名のところを２名増員する費用として６５７万３，０００円、合計１，９７９万２，０００円の計上となっております。

また、７２ページをお願いいたします。

（６）外国人児童生徒サポート員と医療的ケアが必要な児童生徒に係る看護師、また児童生徒不登校支援員、スクールサポートスタッフにつきましては、引き続きの継続配置となっております。

また（７）旧入江家住宅保存整備事業としましては、兵庫県指定文化財の旧入江家の保存と活用を図るための修理工事として７，６７７万９，０００円の計上となっております。

令和７年度の当初予算については、今現在の状況で以上のような状況になっております。説明は、以上でございます。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。今現在、年明けまして、教育部だけではないんですけど、来年度の予算の市長査定を行っております。まだ全部確定はしておらないわけですけど、今説明のありましたように、教育部に関しては今の説明のあった内容で来年度、令和７年度の予算措置を今考えておるところでございます。毎年、教育委員の方々から予算要望をいただいております、今の内容で全てが網羅されてるかどうかはちょっと定かではございませんが、いろんなやはり要望の中で、また教育部の中から予算要求がありまして、ものによっては査定の中で来年度に回すような内容もあるわけですけど、全体の市の予算としてできるだけ進めていくということで、今この中でも（１）の中で今、小中学校の老朽化に伴って大変こどもたちの安全が危ない部分がありまして、そこは説明のありました緊急対策で約５，５００万、これは早急にやっていくということと、補修工事としては前年度からの繰越しを含んで４億４，５００万、これをまず安全確保のためには当然早くやらなくてはいけないということで進めさせていただきます。

それと、今年の７月の暑い時期までに小中学校の体育館の空調設備、これをやろうということで、１２月定例会で議員の方から議決をいただきまして、まずはリースで８，０００万の予算で早急に間に合うようにこれ対応を今するように計画をしております。やはりこれはこどもたちの授業で体育館を使うことだけではなく、今やはり大きな台風が来て避難所として対応を小中学校の体育館でする必要性も出てくるかも分かりませんので、これをやることによって市民の安心安全を守っていくということにもつながってまいります。そういった考えの下で来年度の教育部の予算、そこは一番の大きなところでですけど、教育現場におきましてもタブレットの借上げの変更、それといろんな特別支援であるとか、そういった対応も来年度の中でできるだけ遅れないように、対応できるように今、予算措置を考えております。

それと最後の旧入江家住宅におきましても、今工事を進めておりますけど、約５年かけて工事を進めていく計画で、県の教育委員会とも調整をしながら、今、教育部のほう

でいろいろ調整をして進めているところでございます。今回は7, 600万ということで、入江家の住宅整備を進めていかせていただきます。

私のほうからは以上です。何か御意見ございましたら、よろしくお願いします。

○山名克典教育委員

いいですか。

○都倉達殊市長

はい。

○山名克典教育委員

今回、特別支援に関して人数を増員していただくことありがたいと思いますが、まだなかなかこれでもまだまだだと思いますので、実際に介助員のスクールアシスタントの問題もありますけど、具体的な話でいくとやっぱり通級のところの先生の不足とか、本当になかなか難しくて通級でどれだけその子たちに、その子に適応した個人個人に対する教育が受けられるかといったら、受けられないような状況が現実にあるんで。やはりすごく具体的にはまだまだ人材足りないという、これも一つの市長の言われてる皮肉じゃなくて「教育のまち高砂」にとっての非常に大事なことやと思うんで、やはりそれなりのこどもに対する前から言われてるように誰も捨てない、見逃さないで対応していこうという教育をレベルアップするために、もっともっと予算を付けていただきたいのが事実なんですけど、ありがとうございます。

○都倉達殊市長

どうぞ、吉田委員。

○吉田美香教育委員

まず学校施設ですね。本当に見たらぞっとするような状況なので、早急にしていただけること本当にありがたいと思っています。まずは安心ですね。もちろん安全ということなんですけども、気持ちの問題がとても大きいと思いますので、安心してそこで学校生活が送れるということはあるありがたいことだと思いますし、食のほうも給食、不安なく食べさせていただけるというの也有りありがたいことだと思います。

特別支援に関しても、こうやって増やしていただいているということをととてもありがたいと思っています。これが年々増えていけばなと期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

本当に対応しなくてはいけない状況が目の前にありますので、早く対応できることはできるだけ速やかにやっていきたいというふうに思ってます。

神尾委員。

○神尾信作教育委員

私は、体育館の空調設備、もうちょっと先かなというような、1年でも早くしていただきたいなと思いながら、でもなかなか莫大なお金がかかることなのでなかなか先かなと思ってたんですけども、このたびこうやって予算計上していただいて、この夏は随分快適まではいかないかも、ちょっと安心感があります。体育館に行ったら空調がある。本当にありがとうございます。

○都倉達殊市長

昨年、伊保小学校でデモンストレーションを私も現場へ行って見させていただきました。これ実は、国のほうで体育館の屋根の表面を熱射を防ぐ塗料を塗るとか、そういうことをやると国から補助金がもらえるメニューもあるんですけど、それをやろうとすると大変時間がかかるのと、全小中学校に全部できないんです。全国的に全部予算の取り合いになってしまって、多分それをやろうとすると2、3校ぐらいしかできなくなってしまうおそれがあったんです。そこを市単独で予算上げようということで、渡海先生にもいろいろ御相談させていただいたんですけど、こっちのやり方で先行してやります。ただ将来的に体育館、10年後ぐらいにやり変えなきゃいけない体育館も中にはありまして、そのときにはそういう構造的な問題を解消した中で、またクーラーの設置も含めて国から予算をもらえるようなメニューを取りに行こうかなというふうにも考えております。

○山名克典教育委員

すみません。暖房に関してはどう対応。

○都倉達殊市長

いや、冷暖房できます。

○山名克典教育委員

冷暖房できます。冷暖房したときのあの機械の欠点は、上へ上がってしまったら暖房は上へ上がるだけに、あの機械の特徴としてはクーラーは人の高さぐらいまでの高さで冷やせるけど、暖房になるとやっぱり上へ全部上がるから、上まで上げて下までの暖房効果、人のところまで暖くなるのはすごく能力的にかなりこの分だったら難しいのかなという懸念はあるんですけど。

○都倉達殊市長

ただ体育館内の温度を何度上限ができるか分からんですけど、あとファンで回していくとか、いろんな考え方を入れて。本当に去年の夏が暑くて、学校のグラウンドで授業ができない、中でもできない。こどもたちは本当に大変困ってましたので、やはり体育館の中でそういった外でできない授業を中でできるとか、そういった対応が今度できると思うんです。

○山名克典教育委員

いいですか。

実際にこれがなかったとき、多分、教職員を非難するわけじゃないですけど、暑さ指数が明らかに危険領域に達してても、なかなかずっとこの暑さ指数に関しての警告は10年ぐらい前からずっと出してるわけですけど、なかなかそれに対して納得してくれない。それで実際に授業をやるときにもなかなか。ここ最近はなくなりましたが、でもまだ本当に体育館の中、暑い所で熱中症になって、うちに来て点滴しないとならないような子があったりするんですけど、やっぱりそれはこれで問題ないんですけど、やめる勇気というのが教職員にも。危険があったら、それをやはりはっきり指標が出たときには、やめる勇気というのがこどもの健康を守るためには大事だったんだろうと思うんです。そこが、今は守られてるんですよ。

○玉野有彦教育長

はい。

○山名克典教育委員

と思いますけど。

○都倉達殊市長

熱中症一番怖いですからね。

○山名克典教育委員

はい。そういう意味で本当に皆さん納得していただくまでに、どんだけ大変だったか。なかなか機械も買ってくれなかったから、本当に長い。1回言わせていただきたい意見あったんですけど。

○都倉達殊市長

構造的に体育館の2階の踊り場といいますか、あそこに大体、伊保小学校の大きさと両サイドで合わせて6台設置して冷やしていく。そういった形で。ただ電気料金が。

○山名克典教育委員

よかったです。ありがとうございます。

○都倉達殊市長

ほかよろしいですか。

教育長。

○玉野有彦教育長

私、まずお礼から。本当に昨年度には不登校、今回は施設のことで予算を付けていただき、ありがとうございます。

ただ市長も言われたと思うんですが、ちょっとまだ網羅されてないところもあると思うので、くれぐれおじいちゃんになって市長にお願いしようかなと思っています。

それから特別支援のこと、特別教室の空調のこと、それと皆さん委員さんが言われているスクールロイヤーについてもまた調査研究して上げていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山名先生の言われた全くという言葉ではないと思いますので。熱中症はあると思うんですけども、全くっていうのはないと思いますので、お願いいたします。

○山名克典教育委員

語彙がなかなか選べない人間で。

○玉野有彦教育長

ありがとうございます。

○都倉達殊市長

ほかよろしいですか。

長時間ありがとうございました。議題につきましては以上となりますが、ほかはない

ようでございますので、本日の議事はこれで終了させていただきます。
それでは、進行を事務局のほうにお願いいたします。

○事務局

本日の議題のほうは、これで全て終了いたしました。
これをもちまして、令和6年度第4回高砂市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

○都倉達殊市長

どうもありがとうございました。